しかはま自然観察会

のらえもん

『 人も 自然も みんなともだち ！』No.１７

代表責任者
古高 利男
〒２７０―１１３２
我孫子市湖北台 2-14-7
☎０９０-７２７５-９８９０
２０１５，２月２８（土）

第１７回活動「早春の生き物観察・サケの放流」

・・・あたたかくなってきました。どんな生き物がいるのだろう？
・・・梅の花はどんなようすだろうか？
・・・サケは元気に育っただろうか？

１，日 時： ２０１５年２月２８（土）午後１時３０分～
２，天 気： 晴れ（とっても暖かい日でした）
３．場 所： 都市農業公園
４，参加者： ３家族 大 人 ３
小学生 ２
幼 児 １
合 計 ６ スタッフ２ 総計 ８

５，活動の様子

○ 今年は、サケの放流はありません。それは、受精卵が日本海側から取り寄せた卵だったからです。「太平洋側には、放流をしないで」と言われていたからです。
そのためか、今回の活動の申し込みは１件もありませんでした。
それまでは、育てたサケを大事そうに持ってきて、別れを惜しんでいました。新芝川に放流し、家族で「さよなら。元気で、戻ってきてね！」と、声をかけていたのです。
サケの力の大きさを感じた一瞬でした。

○ 栗原大樹くんの家族が、「１匹だけ、育った。」といって、１０センチにも大きくなったサケを持ってきました。５つの卵の中で、育ったのは１匹だけだったということです。
元気よく泳ぎ回る姿をみていると、また戻ってきて欲しいなと思いました。新しい命を残して死んでいった母の姿の願いが伝わってきました。

○ 栗原北小学校の２年生が、先生に連れられて、放流にきていました。バケツにたくさんのサケが泳いでいました。保護者の方もたくさん来ていました。サケは、大人も子どもも引きつける何かの力を持っているようでした。

○ 梅は、ちょうど見頃でした。小高いところから見ると、赤や白の花を丸く重ねたようになり、とてもきれいでした。その花の間を、メジロが次から次へと飛んでいって、盛んに蜜を求めていました。
赤白の梅の花、花の蜜を求めて飛び交うメジロ、それらを眺めながら歩く老若男女の姿、こういう風景が「平和」といいたいですね。

○ 河川敷では、カマキリの卵を５つ見つけました。

サケの育て方

生命の育ち方を、家族そろってしっかり目で確かめてみましょう。

○ 大き目の水槽を用意します。ポンプもつけてください。
○ 水底には石を入れましょう。(道ばたにある石を洗ったもので十分です)
○ 水草があるといいですね。
○ 家で一番寒い所へ置いてください。(太陽には当てない)
○ 卵のときやふ化したばかりのときは、紫外線を嫌うようです。石の隙間に逃げ込んでいきます。
○ 水温を測ります。ノートに記録しておきます。その毎日の温度を計算しておくと
(積算温度)、サケのふ化の時期や餌を食べ始める時期を推測できます。
○ 水は１週間に１回、半分だけ取り替えましょう。
○ 観察ノートを用意します。変化のあったときには記録しておきましょう。
変化を見つけたときには、家族みんなに伝えてあげるといいです。
○ デジカメで写真をとっておくといいですね。
○ ふ化したら、水流をつけて、水槽の中の水を強めに動かせるといいようです。
元気でたくましいサケに育っていきます。
○ 死んだ卵は別の容器に入れて、どのように変化するか観察してみましょう。
○ ふ化して、腹の黄身がなくなり、上の方に泳ぎ出したらエサを与えます。
めだか用の餌で十分です。
○ 放流は、３月上旬を予定しています。都市農業公園の近くの荒川か新芝川です。
４年後に、群れをなして登ってくるサケに期待したいですね。

＝積算温度＝

積算温度とは、毎日の水温をたしていった累計です。
水温１０℃で１０日間飼育した卵は、積算温度１００℃となります。

積算温度	卵の様子
１０℃	受精する
２４０℃	黒い眼が目立ちはじめる。
３２０℃	**黒い眼が、キョロンと動く。体全体がわかるようになる。この頃の受精卵を配布しています。**
４８０℃	孵化する。卵の膜を破って、頭から飛び出してくる。
７２０℃	お腹の黄身がなくなり、上の方を泳ぎ出す。
９００℃	黄身が完全になくなり、元気に泳ぐ。エサを食べはじめる。
１２００℃	体長３～５センチ、０．８～１グラムになり、サケらしい姿になる。
３月上旬	放流のために、荒川か新芝川へいきます。